

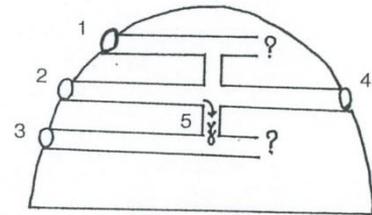
# 文字摺通信

第 105 号  
2026年 2月 1日  
発行:文字摺歴史文化社



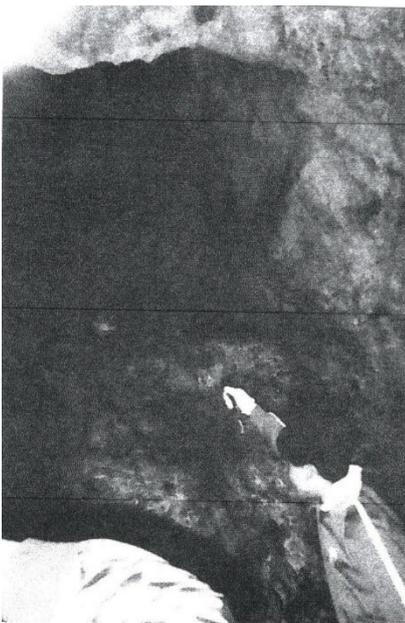
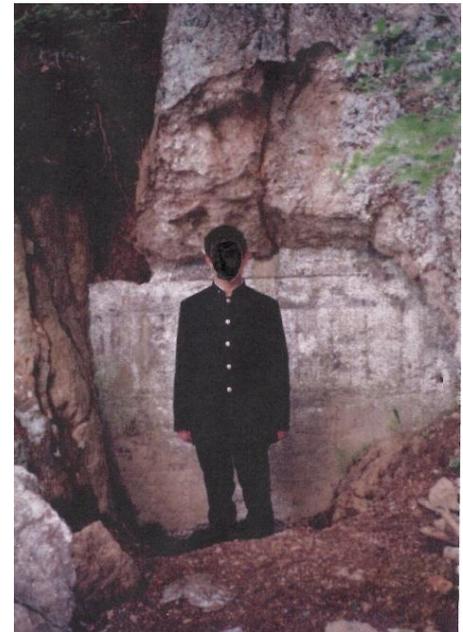
## ～信夫山地下秘密工場～ その4 金龍工場の内部

福島東高校歴史部のフィールド・ワークは主に金龍工場で行いました。はじめは坑口調査を行ない、右図のように信夫山南斜面にある1・2・3の三つの坑口を見つけることができましたが、いずれも坑口はコンクリートで塞がれており、入ることができませんでしたが、1991年8月に第2の坑口の下部のすき間が広がっているのを発見、そこから入ることができるようになりました。右写真は、第2坑口のコンクリート壁前に立つ部員（顔は黒塗りにしました）。足元にすき間が見えます。



金龍工場断面図

金龍工場は3段に分かれ、下から金龍第一工場、第二工場、第三工場と呼んでいました。東高校歴史部が調査を進めることができたのは金龍第二工場です。



【第一工場への天井縦穴】

山根工場は規模が大きいのですが、岩盤が脆く、幾つかの箇所ですり落ち跡がありました。金山の跡を利用した金龍工場は岩盤もしっかりしていました。

上図②の坑口から入坑。入口付近は閉鎖した時の土砂で足元は不安定でした。坑道は高さ3m30cm、幅3m34cmほどあり、北東方向に進み、しばらくして左に90度直角に曲がりました。しばらく行くと幅6m95cmの工場に出ます。工場の入口に、幅約3m四方の縦穴がありました。天井にも同じ穴があり、上の第一工場と下の第三工場を繋がる穴です。非常に危険な縦穴で、私たちの調査期間中の1994年5月に戦後4度目の転落事故がありました(後述)。その新聞報道によれば、第三工場への縦穴は50m